

第2次いけだ いきいき 健康プラン 21（健康増進計画）中間評価（案）
パブリックコメントの結果について

1 実施結果

期間	令和6年12月25日（水）～令和7年1月24日（金）
意見提出者	1人
提出件数	3件
意見等への対応	（1）意見を計画に反映するもの 0件 （2）この度の見直しの対象とならないが、その他全般に関する意見 3件

2 意見の概要と町の考え方

No	項目 ページ	意見	意見に対する町の考え方・対応
1	特定健診 受診状況 P19	特定健診の受診率が低くとどまっているところで、年齢が40～60歳までの働き盛りの人が特に低いように思います。男女問わず日中の勤務時間内で受診できるような施策が必要だと感じました。 早期発見の観点からも事業所、家庭での受診をすすめることができるとよいと思います。	当町の特定健診受診率は、年齢が40～60歳までで特に低く、県と比べても低い状況が続いています。 ご指摘のとおり、生活習慣病等の早期発見のためには、特定健診等の健康診査について家族や地域で声をかけあい、若い世代から定期的に受けることが必要です。引き続き健康に関する情報提供と知識の普及啓発に取り組むとともに、医師会等と連携し、受診しやすい環境整備の充実を図っていきます。
2	食生活・栄養 P30～37	朝食の摂食状況などで、成人20代の低さが気になりました。子どもの朝食摂食状況について、小学校入学あたり（6～8歳）の割合が成人まで影響しているのではと思いました。	朝食の摂食状況の結果から、20歳代女性で約半数に欠食がみられます。また、20～40歳代男性と30歳代女性も約2～3割に欠食がみられ、若い世代で欠食する割合が高くなっています。 ご指摘のとおり、幼少期からの朝食の欠食等といった生活習慣は、将来の健康状態に影響すると考えられます。 子どもの頃から朝食の重要性や生活リズムの定着ができるよう日常生活の基礎となる家庭での食育について周知啓発を強化するとともに、関係機関や団体と協働した取り組みを継続していきます。

3	町民の健康を支え、守る環境づくり P79	地域活動などへの参加、企画を活発にするために、インターネットの活用は欠かせないと思いました。	今回のアンケート調査の結果から、地域活動に参加したことがある人は約6割と、5年前の策定時に比べてやや増加しています。また、健康づくりに関する情報の入手方法として、インターネットが約5割を超え最も多くなっています。ご指摘のとおり、若い世代から地域活動等に参加し、地域や人とのつながりを深め、自身の健康につなげていくには、広報やチラシ等による情報提供に加え、インターネットの活用も欠かせないものと思われます。積極的な社会活動の参加が健康状態やQOL（生活の質）に深く関係することから、多様な媒体による分かりやすい情報提供に努めるとともに、地域活動を推進し、健康づくりに取り組みやすい環境の整備を図っていきます。
---	-------------------------	--	---